

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会

第29回専門学校教育研究会 講演録

教育現場における生成 AI の活用

札幌国際大学 基盤教育部 准教授

安井 政樹

青山学院大学非常勤講師、青山学院中等部情報担当講師

安藤 昇

目次

I 教育現場における生成 AI の活用 (1).....	1
------------------------------	---

II 教育現場における生成 AI の活用 (2).....	8
-------------------------------	---

I 教育現場における生成 AI の活用 (I)

札幌国際大学 基盤教育部 准教授

安井 政樹

はじめに

札幌国際大学の安井と申します。文部科学省の学校 DX 戦略アドバイザーを務めており、今年度だけで 150 回以上の講演を行っています。それだけ全国各地で AI への関心が高まっているということであり、日々、北海道から九州まで駆け回っています。

私は 20 年間の小学校教員の経験を経て、札幌国際大学に移りました。本学には観光学部、人文学部、スポーツ人間学部の 3 学部があり、私はその全ての学部の基盤教育を行うほか、教員養成にも携わっています。今の学生は自ら問いを立てるとか、自分の考えをしっかり持つとかといったことがなかなかできないため、基盤教育では主体的に学ぶ姿勢を教えることを担当しています。

本日の講演の目標は、AI と良きパートナーになっていただくことです。AI を敵視したり、AI のせいで仕事なくなるのではといった否定的な見方ではなく、AI と共存していく姿勢が大切であるご理解いただければ幸いです。実際、学生たちの中にも「AI のせいで僕たちの就職先がなくなるのでは」という不安を抱える声がありますが、そうではないことを伝えていく必要があります。

私の講演の後には安藤先生の講演が行われます。本日まで来場の皆さんの中で、これまで安藤先生の講演を聞いた方はいらっしゃいますか。講演というより、かなりぶっとんだ、衝撃的な「ショー」が始まります。私はその「前座」として、なぜ AI 時代が到来したのか、また AI 時代の心構えなどをお話したいと思います。

講演の前に、ただいまご来場の皆さんにアンケートに答えていただき、その結果を AI に分析してもらいました。「生成 AI をプロポーズに使ってもいいかどうか」という質問では、美容分野の専門学校の関係者の方々に「あり」という回答が多い一方で、IT、デザイン、保育、服飾分野の方は「なし」と答える傾向が高いという、興味深い分析結果が出ましたね。性別や年齢別でも傾向が異なるので、この結果を踏まえていろいろと議論したら面白そうです。今日もセッションとして、隣の席の方と少し話し合ってもらいました。大学で私が学生たちにこんな風に AI を使っているということを体験していただきたかったからです。大学の授業では AI をきっかけに、今日のようにディスカッションを促す使い方をしています。自ら考え、問いを立て

る力を養うために AI を活用しています。

AI と日本人の親和性

本日用意しているトピックの 1 つは、AI に対する日本人と海外の人との反応の違いです。日本人は AI やロボットに対して、比較的親和性が高い傾向にあります。これは、ドラえもんや鉄人 28 号といった、ロボットを人類の味方として描く日本のコンテンツ文化が影響していると考えられます。逆に、海外の作品では、宇宙から地球を侵略したり人間を襲ったりと、ロボットが人類の敵として描かれることが多いようです。このような背景から、割と日本人は AI やロボットを我々の仲間のように思っています。特にドラえもん効果は抜群です。親和性が高いから、子どもたちは AI を一気に使ってしまうのです。

ただいま挙手してもらいましたが、本日ご来場の先生方も、ほとんどの方が AI を使われています。そうでなければ、そもそも私の講演に来られないと思うので、ここには AI に関心が高い先生方が集まっています。一方で、実は興味のない先生もたくさんいらっしゃいます。私は全校の学校に行っていて、職員室も訪れるのですが、実感値として教職員の AI 使用率は約 2 割程度です。ところが教室で児童・生徒たちに聞きますとまったく違います。一番よく使っていたのは、小学校では 6 年生で、7 割近くが手を挙げていました。中学校では 2 年生で 8 割くらい手を挙げたクラスもあり、非常に多くの子どもたちが使っています。これはもう、子どもたちが AI を敵ではなく、味方と思っているということです。

こんな CM があります。ちょっとご覧ください。AI から英語を教わるというソフトバンクの CM ですが、この感想をお隣の方と少し話し合ってみてください。いかがでしょうか。では同じパターンで、あと 2 本見てみます。巨大パブリカを食べるレシピを AI に聞いていましたね。調理の専門学校でこうやってレシピを作成するのはありでしょうか、なしでしょうか。「あり」という先生もおられれば、「自分でレシピを考えることに意味がある」という先生もいらっしゃるわけですね。その辺の意志疎通と言いますか、学生たちと共に「使う」「使わない」を考えて、彼らが納得しなければ、結局は裏でこっそり使ってしまうことになってしまいます。「先生、わかりました。僕はこれでやります」といった関係を作っていくことが大事だと思っています。

最後に、数学の問題を AI で教わる CM も見てもらいました。こういったものを学生たちにも見せながら、身に付けなければいけない力は何か、AI に任せていいことは何か、FD (ファカルティ・ディベロップメント) に取り組む際や新入生オリエンテーションの場、また高校や専門学校での講演会など、さまざまな機会を通して話をしています。放っておくと、やはり何でも AI に聞いてしまう、ということになりがちで、教育者としてはそれで本当に良いのか悩むところですね。

例えば、いまご覧いただいた CM で気になるシーンがあります。小学生が Perplexity AI (情報検索に特化した AI アシスタント) を使っているように見えるシーンです。小学生が Perplexity AI を使うのは、規則的には今の段階では NG のはずです。CM で流していいのかと思いますが、よく考えたらソフトバンクがそんなミスをするわけがありません。保護者の監督下であれば使っているのは親です。親が使っていれば子どもはどんどん使ってしまうですね。何のための小学生禁止の規則か、とったりもしますが、一方で「なんでもあり」の時代が来たのだと思います。

今、私は (AI 推進に) ブレーキを踏むニュアンスで話をしましたが、やはりこれからの日本は AI がなければ生きていけないという社会になります。そんな話をしながら AI について語っていきます。

自立した学習者を育てる

私は今日、札幌から参りましたが、いまご覧いただいているのは現在の札幌駅の様子です。雪が降っています。皆さんは札幌に行くとしたら、どの交通手段で行きたいですか。飛行機、電車と新幹線、フェリー、徒歩の4つの中から選んでください。

この選択の結果は、それぞれ好みがありますのでどれも否定いたしません。ただ、ここで少し意地悪な質問をすると、乗り物を使っていたら体力が落ちないでしょうか。しかしそこで私が「今日から電車もバスも自動車もやめませんか」と提案すると、この人は何を言っているのだ、と奇異に思われてしまいます。でも、「道具」を使わないほうが、体力が付くのは、火を見るより明らかです。そうした視点では「道具は悪だ」といった感覚になりますが、私達は日々の暮らしのなかでバランスを取っていかなければなりません。「乗り物を使いすぎたから適度に歩こうかな」とか、自分の状況を見て選ぶのです。この話題を出したのは、「道具に頼りすぎると人は考えなくなる」といった AI に対する批判をあえて皮肉ってみたものです。

AI に頼りすぎると学生が考えなくなる。確かにそうですが、これは自動車がある現代に「自動車を使うと体力が落ちるから大学まで歩いてきなさい」という無茶ぶりと一緒にです。学生からすれば、「こんな便利なものがあるのになぜ使わないのか」となるでしょう。

皆さん、携帯をお持ちだと思いますが、ご家族の携帯番号を暗記されていますか。私は、母の携帯番号などは、すぐに出てきません。昔、よく電話していた親友の家とか、自宅の固定電話の番号はいまだに覚えているのですが。そうした面では、スマートフォンは記憶力の敵ですが、ではやめましょうか、という結論にはなりません。電話番号は、覚えることが目的ではなく、電話をかけるためにあります。ですから実は、人間が電話番号を覚える能力を失っても困らないのです。スマホがあると記憶力が落ちる、パソコンを覚えると字が書けなくなる、それは確

かに事実ですが、今やそれなしに素手で戦う必要はない、ということです。

未来のことはわかりませんが、既に文部科学省は AI のことを「社会インフラです」と言い出しました。「あって当たり前」ということです。道路の渡り方を教えるのと同じように、AI の使い方や付き合い方を子どもたちに教えていかなければならない、というのが文部科学省の今の考え方だとすると、もはや AI 禁止などと言っている場合でないのは明らかです。本日の研修会も、より良い教育をしていくために AI をどう活用するか、という目的でお集まりいただいたと理解しています。

私が全国の先生方をお願いしているのは、自立した学習者を育てていきたいと思いますということです。「私はこんな力を付けたいからこういう風に学ぶ」と、自分のために道具を使いこなせる学生です。小学校でよくあるのが、「これを書きなさい」「提出しなさい」「話し合いなさい」といった命令形の授業です。そうではなく、学生達がみずから「先生と話し合ってみたいです」「こんなモノを作ってみたいです」という体(てい)の授業をしていかないと、これからは生き残れないと考えています。

命令形の授業、例えば「レポートを出しなさい」という形だと、学生は恐らく AI を使って書いてくるでしょう。しかし、「今日の授業は面白かったな、先生に感想を伝えたいな」「自分の考えを整理したいな」などと自発的になれば、決して AI を悪用することはないと思うのです。むしろ自分の役に立つために AI を使う。何かを伝えたいと資料を作る場合、文章だけでは物足りないからイラストも使いたい、そのイラストももっと可愛くしたいと、どんどんアイデアが湧いてきて、実現するために AI を使う。そんな学生の「想い」を育てていきたいと考えています。

AI は想いを乗せるツール

ところで皆さんのご家庭ではどんな掃除道具を使っていますか。箒、掃除機、スティック型掃除機、ルンバの4つから選んでください。洗濯用品も A から D まで用意しました。何の質問かという、皆さんこれらを使っていると掃除力や洗濯力が落ちます、ですからやめませんか、と言ってもやめるわけがない、という話です。さらに時と場合によって道具は使い分けるので、絶対に「これがいい」ということにもなりません。

しかし、これを禁止されたら困りませんか。教育もそうで、教員が禁止するのではなく、学生に選べるようになってほしいのです。そのためには A や D などの選択肢がないと、学生も選びようがありません。また、大学の使命は社会の要請に応えられる学生を育てることです。仮に私の大学で AI を禁止すると、卒業生の企業の採用率はたちまち下がるでしょう。そんな大学に学生は来ませんから、大学の命運にも関わると、私はかねてより教務委員会などで口を

酸っぱくして訴えています。もちろん学生の本分は勉強ですが、そのために AI を使えるようにするべきで、少なくとも禁止だけはしないようにしたい。皆さんにもそうお願いしたいと思っています。

ここで質問です。「AI は嘘を付くと思うか」「子どもたちが感想文に悪用するのは問題だと思うか」「レポートの作成に AI を使うのは駄目か」、ありがとうございます。さすがに皆さん、AI の使用に柔軟ですね。ここまで言うとお分かりかと思いますが、要は一律に禁止するのではなく使い方次第ということです。個人情報流出する懸念はあるかと思いますが、これも設定次第です。組織アカウントでなんとでもなります。AI という頭の良い「相棒」を使わないのはもったいない、私はそう思っています。

それではまた AI を使ったデモを行ってみましょう。「社会福祉の専門学校に学生を集めるキャッチコピーを 10 個考えてください。就職率はばっちり福祉施設に働くことができます。先生たちも優しく、とても楽しいキャンパスです」。いま AI にこんな命令をしました。どうでしょうか。結果をご覧ください。こういうことを教員がやってみると確かに効率的です。AI が回答したキャッチコピーをそのまま使うのではなく、叩き台として「この言葉も入れたい」「あっちのコピーとこっちのコピーを組み合わせたい」などと、濃密な議論ができるのではないのでしょうか。効率的と言いましたが、冷たいニュアンスのある「効率的」ではなく、募集する学生に伝えたい「想い」を乗せる時間が増えると思いませんか、というデモです。学部のキャッチフレーズにしろ、ポスターを作るにしろ、想いを込めていくツールとして使うと、AI はそんなに悪いものではないという気がしてきませんか。

ちなみに先生（会場で指名した参加者）は何番がお好みですか。6 番（「人の役に立つ仕事がしたいならココ」）ですか。ではもう一声命令してみます。「先生達は 6 番が好きと言っています。この要因を考えながら、さらに 5 つ提案してみてください」。結果が出ました。多分この先生はこういう理由で選んだのではないかと分析してくれています。こんな風に「人の役に立つ仕事」を掘り下げてみると、「これだ」というものがさらに出てくるのではないのでしょうか。先生、いかがでしょうか。1 番の「就職率 100%」も入れたいということですね。いいですね、この言葉にこれを足したい、という「想い」を乗せることが大切です。こうしたデモンストレーションが学生達にも必要かと考えています。

学生が真に身につけるべき力

次のデモでは専門学校のイメージソングを作ってみます。時間もないので短めの歌詞を作れと命令しました。また、Google で「Suno」と検索すると、音楽生成の AI が出てきます。これは無料で登録できます。「Suno」に歌詞を入れて、「クリエイト」をクリックすると、あっという

間に歌が出来上がります。「優しさは力になる」というタイトルになりました。もう一曲作ってみましょう。とても簡単に、MP3でダウンロードできます。今はこういうことが当たり前ができる時代です。学園の歌を作りたいとか、学園祭でこういうことがしたいとか、「〇〇したい」があれば、それを実現する AI が登場するわけです。仮に飛行機を知らない人がいるとすると、北海道に行く手段は電車や徒歩に限られますね。そういう人に、「こんな便利な乗り物があるよ」と、飛行機の存在や乗り方を教えてあげる感じで AI を使っていく。もちろん我々も学んでいる途中ですが、一緒に学んでいきませんかということになっていくのです。

AI は歌も作れますし、イラストも動画も、スライド資料も作れます。衝撃的ですがプレゼンテーションにあたっては、もはや PowerPoint でいちいち作る必要すらありません。少しデモしてみましょう。「専門学校の授業でどのように生成 AI を活用していくかについての講演のスライドの構成を考えてください」。タイトルから始まって、スライドが次々に構成されていきます。枚数を指定しなかったため、非常に丁寧に作成してくれていますね。PowerPoint 形式で出力を命令すると、ダウンロードできるように作ってくれます。関数なども、ほぼ教えなくても、「こういうことをしたい」と言えば実行されるようになりました。

高校の先生方の中には、「関数を覚えなければ駄目だ」という先生もいらっしゃるかも知れません。確かに昔はコマンドを覚えなければ動きませんでしたが、今となっては印刷もワンクリックで済みます。関数を書かなくてもいいのに、本当にそれが必要な力なのか、ということです。スライドも AI がこれほどの完成度で作ってくれますので、PowerPoint を新規に作成して、テキストボックスを加えて、といった操作を果たしていちいち教える必要があるのでしょうか。そこに時間をかけるより、我々は中身の充実に時間を費やしたほうがはるかに有益です。AI をあくまで乗り物のように手段として使いこなすことを期待するとともに、先ほど「素手で戦う必要は無い」と言いましたが、これから学生達が本当に身に付けなければならない力は何か、教員として見極めることが非常に重要だろうと思います。

では皆さんと一緒に、もうひとつ考えていきたいと思います。イギリスのロボットの映像をご覧ください。いま記者が「日本語を話せますか」とロボットに聞いていますね。そうするともう日本語で答えています。こんなロボットが各家庭に1台、配布されるようになったら、皆さんはどう使われるでしょうか。隣の方と1分間話し合ってください。ありがとうございます。私は小学校などで、同じテーマで議論をさせています。この時に必ず問うのは、ロボットに宿題をやらせてもいいか、ということです。小学生なら「もちろんやってもらう!」と即答ですが、中学生になると「それは自分のためにならない」と気づき始めるのですね。

また、見ていただいた映像の中で、ロボットは「米津玄師の歌が好き」と答えています。

一度も聞いたことがないのにです。つまり知識だけで心がない。ですから小学生には、AIの授業の際、「ロボットはあなたのことを本気で心配していない」ということを理解してもらうよう意識しています。読書感想文を「自分で書きなさい」と叱る母親と、書いてくれるロボットと、どちらが本当に優しいか、という問いを投げかけています。

このような(AI倫理に関する)初等教育をきちんと受けた子どもたちが長じて専門学校に来るならば、あらためて教育する必要はありません。しかし今、ヨーイドンで始まっていますので、全く間に合っていない子どもたちが私の大学にも来ますし、先生方の専門学校にも来るという状況です。今の小学校、中学校で、私が「AI倫理」として教えていることをなぜか18歳の学生にも指導しなければならない。まして先生方も習ったことがないので、今は手探りの黎明期です。

最後にもう一つ、日本で開発したロボットの映像をご覧ください。AIと共に生きていく時代がやってきたというショートストーリーですが、いかがでしたでしょうか。AIと共存する時代の中で学校はどうあるべきか。今日の講演を通してAIは敵というより、使い次第で敵にも味方にもなる、ということがお分かりいただけたと思います。学生達にはレポートを書く手掛かりを得るなど、自分のためになるヒントとして使ってほしいと伝えています。

我が国の生産年齢人口は、5年後に200万人減少すると言われています。それだけの人口が減ると、AIにできる仕事はAIにやってもらわないと、この国は立ちゆきません。既にセルフレジが増えたり、食事を運んだり、警備や清掃もロボットが行うようになっていきます。こういう時代にあって、学生達はどんな力を付けていくべきなのか。人間にしかできない良さ、人間ならではの温かさは何か。そんなことを各校で丁寧に話し合いながら、学生達が上手くAIを活用できるよう、導いていただきたいと期待しています。

ご静聴ありがとうございました。

Ⅱ 教育現場における生成 AI の活用 (2)

青山学院大学非常勤講師・青山学院中等部情報担当講師

安藤 昇

はじめに

最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。私は普段、青山学院の中等部で教えています。中等部では5年前から校長の方針により生成 AI を教育に取り入れています。5年前のことですので、恐らく日本で最も早く授業に AI を導入したのが私ではないかと自負しています。ほかにはオンライン学習サービス「スタディサプリ」の「情報」の講師もやっています。趣味はプログラミングで、毎日1つはアプリケーションを使って何らかのシステムを開発しているという少し変わった人間です。YouTuber もしていて、現在、3万人ほどの登録者がいます。

YouTube の収入は生徒の AI 利用に注ぎ込んで、好きに開発させています。

青山学院中等部では一昨年の4月に、校長から保護者の方に AI を教育に使うという通達を出しました。当時は、13 歳未満の AI 使用はできませんでしたので、中 3 の授業からスタートしました。これが多分、日本の学校で初めての授業で、AI に関しては非常に先駆的に取り組んでくれる学校です。私も良い環境でやらせていただいています。本日は動画資料をふんだんに活用しながら、AI の教育利用について考えていきたいと想います。

最新 AI の圧倒的な進化

最初に私が YouTube の登録者数がまだ3万人くらいの頃、AI で作った動画をご覧ください。中世の騎士がお姫様をめぐる争いに巻き込まれるという王道のストーリーで、伝説の剣が出てきたり、悪魔が現れたり、最後は宇宙に行くというものです。このくらいの動画はもう今、中学生でも当たり前で作る時代です。例えば専門学校でもデザインを勉強されていますが、それも AI で簡単にできます。

ちょっと ChatGPT でやってみましょう。「未来を意識した格好いい服をデザインして。着ている人はキュートな女の子で」と指示しました。そうすると AI がこれを判定してプロンプトを作ってくれます。画像の比率を調整して、何分か経つとじわじわと画像が出てきます。AI というのはたくさんのデータを学び、その「いいとこ取り」をして組み合わせをする仕組みです。青学の生徒に教える時には、最初にこの画像生成を通して説明しています。

はい、指示した通りのファッションが完成しました。ファッションはもちろん、ほかにもお菓子を作るなど、何でも自分の思い通りのデザインが AI でできます。将来的に恐らくデザイナー

は仕事がなくなります。素人の私でも今、頼まれて新宿の飲食店のデザインをするくらいです。そうすると大事なのは、誰が作ったか、ということです。知名度の高い芸能人が絵を描いたら、どれだけ下手でも値段が付きますよね。まして（AIにより）絵のクオリティも差がなくなると、この作品は誰が作ったかに価値が生まれます。そのためには SNS のフォロワーなどの人気があるものがすごく重要なので、これからの時代はより人間性が求められるということです。

本当に誰もがプロフェッショナルなことができる時代です。例えば、私の動画で流した曲は、「80 年代風の松任谷由実をイメージした曲を作って」と AI に指示して私が作ったものです。いかにもそれっぽいでしょ？ これも中学生でも誰でもできます。

最近ですと 4 コマ漫画もできたりします。ただ私は、最新の AI をかなり使っていて、全てが有料のフル課金です。ハイレベルの AI に API（アプリケーション・プログラミング・インターフェース）をどんどん使っているんで、レベル違いの作品が作れるのです。つい最近リリースされたものは、4コマ漫画のストーリーから考えてくれる優れモノです。ですからやりたいことはほぼできる。生徒にはそうしたことを教えています。

ちなみに有料の AI を使っている方はこの中にいらっしゃいますか。ほとんどの方が無料のものを使用しておられますね。しかし最新の AI（有料）は、この数年で格段に進化しています。無料の AI というのは人間の知能にたとえると、2年前のものなら IQ64くらいで、日常生活が少し困難なレベルです。1年前に出たものは IQ84まで上がりました。人間の IQ は 100 が平均なので会話が成り立つ感じです。そして今年の9月には「考える AI」が出てきました。これはなんと IQ120 です。AI の進化に皆さんが付いていけないのは、急激に人間のレベルを超えて性能が上がったからです。私たち人間は、AI が主体となったという、いきなりの認識変化を迫られているのです。

ですからもう、人間の頭でやることは全部 AI でできます。それをこれから色々とお見せします。この 10 月には、人と話す AI がリリースされました。今からご覧いただくのは、「私」を5分間だけ学習させて作った、私ではない私です。意味不明だと思いますので、実際にご覧ください。（安藤氏に似た人物が話している動画が流れる）ちなみに 50 か国語が話せます。絶対に本人ではないとばれないクオリティなので、例えば大学の先生が、海外の学会等でオンラインによるプレゼンテーションする時などに作ってあげています。

また、人と話せるので、授業もできるのではないかと、実際に青山学院で試してみました。VTuber の中にくだんの AI を組み込んで、私と対話しながら授業しています。「ドローンジャーナリズム」という科目で、教室にはアシスタントを配置しています。授業中に留学生がいるとわかったので英語に切り替え、その後は彼女（AI）のほうが英語がうまいので、ほとんど全部任せました。先ほど、スタディサプリの講師もしていると言いましたが、AI に委ねて、もう私は

いらないんじゃないかと最近思っています。人前で話す機会も少し減りました。

これが最新 AI の現状です。すごいでしょ。この 12 月には、「考える AI」がさらに進化し、ついにメンサ会員（知能指数が全人口の上位 2%に入る人々）を超えました。これがどれだけすごいかというと、共通テストは9割方得点し、東大文科I類のボーダーラインをはるかに上回ります。また、皆さんは東大理系の数学の問題が解けますでしょうか。東大数学の入試には、「捨て問」という、ほぼ解けない難しい問題があり、人間なら（解ける人でも）小1時間ほどかかります。これを「考える AI」の一番低いレベルに入れてみましょう。ものの数十秒で回答が出ましたね。もちろん正解です。私は数学の教員ですが、今では AI に聞きながら難問を解いています。

こうしたことを知るにつれ、言い方は悪いかも知れませんが、高校で学ぶ内容というのは、社会に出て全く必要のない知識になると思います。なぜなら AI が勝手に代替してくれるからです。

最近の AI はビデオ通話で相手を認識します。また文字も認識します。これからお見せするのはクリスマスシーズンに撮影した動画で、私がサンタさんに二次連立方程式を教わっている様子です。私が手で書いた数式を、AI サンタがきちんと認識して解き方を説明していますね。私の顔も画面越しにしっかり認識しています。これを見ると、もはや東大生の家庭教師も要らないでしょう。家庭教師のアルバイト先がなくなるというのは、近いうちに現実的な問題になってくると思います。

また従来、AI にできないとされていたのは、ゼロからイチを創造する「ひらめき」ですが、それもこの前、覆されました。今年の1月 20 日に中国が DeepSeek という、恐ろしい AI を発表しましたね。これは ChatGPT や Gemini などと違い、途中の計算は考慮せずに、回答が合っていたら正解という演算の仕方で作られていますが、実はこれが正しかった。というのは、AI が計算する途中で、何かに気づき、自ら考え方を変えて解き出したのです。要するに「ひらめき」を持ったという、ノーベル賞級の発見がなされました。さらにこのことによって、計算過程がかなりコストダウンされました。

有料版に関しては、ハルシネーション（生成 AI がユーザーの質問に対して、事実とは異なる情報を利用して回答を生成すること）もほとんど気にならないレベルで使えるようになっていきます。

プログラミングを感覚的に学ぶ時代

では私たちがこれからやるべきことは何か。頭を使うことに関しては、AI は人間をはるかに凌駕していますので、悪用しようと思えば、銀行のハッキングでも、他人のクレジット

カード情報を盗むことでも何でもやり放題です。ディープフェイクで顔や身体を入れ替え、不適切な画像を作る輩(やから)も出てくるでしょう。AIを使えば、小学生でも簡単に悪さができます。ですから倫理教育だけはしっかりやらないといけません。

AIの進化の話を続けると、1月25日にAIエージェントが登場しました。自ら考え、PCを操作するAIです。実際にやってみます。「東京・市ヶ谷駅の周辺で美味しいお店を予約して」と入れると、勝手にブラウザを開いて検索してくれ、予約まで取ってくれます。私はこれを活用して中学校の授業でプログラミングに取り組んでいます。バインドコーディングというプログラミング手法です。これからこの言葉はたくさん耳にしたいと思いますので、ぜひ覚えておいてください。

バインドコーディングは感覚的なコーディングで、誰でも簡単にできます。指示してみます。「ちょっと面白いゲームを作りたいな。例えば何か置いたら爆発する感じで。ただしブラウザ上で動くゲームで」と指示すると、AIが「わかったよ」という感じで、HTMLを書き始めます。今の中学生はこれでコードを量産します。能力のある子は中学生でもアプリをどんどん開発して、何十年もプログラミングをやっている私でも太刀打ちできない生徒が何名かいます。

自動でゲームを作るAIエージェントなどが登場すると、プログラミング能力が身につかないかという、決してそうではありません。プログラムのコードをどうやって学ぶかという、バグがあった時に、どこが原因かAIに聞いて学んでくるのです。才能のある子は、プログラムなんて基礎から学びません。探究心や好奇心のある子は、どのコードがそれを動かすのか自発的に学んでいます。ですから生徒たちにも、まず感覚で覚えてもらい、これを量産するという方向で取り組んでいます。感覚を身に付けながら学ぶような時代がもうすぐ来るということです。

個人的にはAIの進化により、インプットやアウトプットはもう人類がやるべきことではないと思っています。人間はいかに楽しく生きるか。これがあれば寝食を忘れて夢中になれるというものがありますよね。生徒にはそれを見つけることがものすごく重要だと伝えていきます。特に幼い頃には受験勉強なんかさせずにひたすら遊ばせて、好奇心の塊みたいな人間に育てたほうが絶対にいいと思います。田舎でドジョウを捕ったり、野山を駆け回ったり、いろいろな遊びや経験をしたからこそ、アイデアが湧き出てきます。中学校、高校の勉強もAIで全く構いません。最も重要なのは人間同士の触れ合いです。

大学生、あるいは専門学校生になると、論文やレポートが大切になりますが、これも人の手によるものとAIによるものを区別するのは不可能に近くなると思います。またその評価にもAIが使われており、学生がAIで書いた論文をAIが評価することにもなりか

ねません。もっとも、評価システムも高度化していますので、論文の構成や正確性は AI に、独創性や参考文献の適切性といったところは人が対応するといった使い分けが求められます。

終わりに

ここまで、最新 AI を使ってさまざまなデモを行ってきました。恐らく皆さんもその進化や、AI にできることの広さ・深さに驚かれたことと思います。私は、未来の社会が、AI 主導型になるのは間違いないと見ています。したがって AI に抗うのは得策ではありません。どの分野、領域においても、例えば将棋の世界のように AI と共存する道を選ぶべきだと考えています。むしろ AI から学んだことを生かし、人間同士の交わりを楽しむのが本当に豊かさだと思います。

私は、将棋界のレジェンド、羽生善治氏が「私達が叡智と呼んでいたものは、AI の可能性からすると 1%くらいではないかという気がしてなりません」という言葉が強く印象に残っています。AI が出たことにより、今まで研究されなかった分野も事細かに研究され、それが人類にとって役に立つ、という意味にも解釈できます。AI には未知の、膨大な可能性がまだまだありそうです。AI 主導型の未来をどう生きるか。その想いを生徒達に託して、日々熱弁を振るっています。

ご静聴ありがとうございました。